

人と自然をつなぐ インタープリター

「赤目四十八滝」で知られる、名張市赤目町。近鉄赤目口駅から滝へと向かう道のりには、美しい里地里山の風景が広がっています。

赤目の滝を訪れるなら、四季折々の豊かな自然が感じられる里地里山も歩いてみてほしい。ここでしか味わえない地域の魅力と人情に触れる散策コースを、わたしたちインタープリターがご案内します。



赤目の自然、文化（風習）、歴史を学びながら、改めて地域の人々とともに、ここの魅力を感じていきたい。

赤目四十八滝

約4 Kmの遊歩道を歩いて、大小さまざまな滝を望むことができます。不動滝、干手滝、布曳滝、荷担滝、琵琶滝は赤目五瀑として有名な滝です。



▲赤目四十八滝の入口にある「日本サンショウウオセンター」では、特別天然記念物のオオサンショウウオを見ることができます。

「赤目四十八滝」
名張市赤目町長坂861番地1

赤目インタープリター研究会のはじまり

平成21年、赤目四十八滝溪谷保勝会と名張市の観光協会から環境学習情報センターに「インタープリター養成講座」開催の依頼がありました。この養成講座は、今後エコツアーに取り組んでいこうという目的から、赤目溪谷地域周辺でインタープリターとして活動したい人を一般から募集し、開催されたものです。

4日間のインタープリター養成講座の修了生により、のちに発足したのが赤目インタープリター研究会です。「自然に関心があり活動してみたい」「地域のために何かしたい」というメンバーの想いもあり、活動が始まりました。

現在は赤目四十八滝でのエコツアーのお手伝いなども行うかたわら、研究会独自の「里地里山ツアー」を企画・実施するなど、

？ インタープリターとは

インタープリテーションを実施する人をインタープリターとよびます。参加者が体験したり考えたりして、自然などからのメッセージに自分から気づくように導くのが、インタープリターの役割です。

インタープリテーションとは

自然・文化・歴史（遺産）の価値などをわかりやすく人々に伝える活動です。一方的な説明ではなく、その本質にあるメッセージを伝える活動や、その技能のことをインタープリテーションといいます。

お話を伺った人

赤目インタープリター研究会



左:代表
ちぐさ ひろよし
千種 啓義さん

右:副代表
みやもと あつし
宮本 篤さん

赤目の滝を含めた赤目地域をフィールドとして、名張市内の人を中心に15名で活動しています。今後は活動の幅を広げていくため、一緒に活動する仲間を募集しています。

地域と訪れた人をつなぐ役割を果たすインタープリターとして活躍しています。

そこで赤目インタープリター研究会が開催した「春の赤目里地里山ツアー」のようす取材してきました。